

平成24年5月17日  
於  
府中市立教育センター

平成24年第5回

府中市教育委員会定例会会議録

府中市教育委員会

平成24年第5回府中市教育委員会定例会会議録

- 1 開 会 平成24年5月17日(木)  
午後3時01分  
閉 会 平成24年5月17日(木)  
午後4時03分
- 2 会議録署名員  
委 員 北 島 章 雄  
委 員 崎 山 弘
- 3 出席委員  
委員長 久 芳 美恵子 委員長職務代理者 崎 山 弘  
委 員 北 島 章 雄 委 員 齋 藤 裕 吉  
教育長 糸 満 純一郎
- 4 欠席委員  
なし
- 5 出席説明員  
教育部長 吉 野 寿 一 文化スポーツ部長 後 藤 廣 史  
教育部副参事兼指導室長 文化スポーツ部次長兼生涯学習スポーツ課長  
小 椋 孝 町 田 昌 敬  
総務課長 澁 谷 智 文化振興課長 酒 井 利 彦  
総務課長補佐兼学校耐震化等推進担当副主幹 文化振興課長補佐 江 口 桂  
月 岡 敏 浩 文化振興課長補佐 谷 本 耕 一  
学務保健課長 中 村 孝 一 生涯学習スポーツ課長補佐 古 田 実  
給食担当副主幹 須 恵 正 之 美術館副館長 山 村 仁 志  
指導室長補佐 桑 田 浩  
統括指導主事 瀧 島 和 則  
指導主事 大 津 嘉 則  
指導主事 山 本 勝 敏
- 6 教育委員会事務局出席者  
総務課係長 熊 坂 奈 美  
総務課主任 山 本 正 芳

## 議 事 日 程

第1 会議録署名員選定について

第2 会期決定について

第3 議 案

第18号議案

平成25年度使用教科用図書採択要綱について

第4 報告・連絡

- (1) 郷土の森博物館「あじさいまつり」について
- (2) 2012 ボールふれあいフェスタの開催について
- (3) 第23回市民スポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催について
- (4) こども体力チャレンジ事業の実施について
- (5) 企画展「イメージの叫びーパワー・オブ・創作木版画」の開催について

第5 その他

第6 教育委員報告

午後3時01分開会

○委員長（久芳美恵子君） ただいまより、平成24年第5回府中市教育委員会定例会を開会いたします。

\_\_\_\_\_ ◇ \_\_\_\_\_

○委員長（久芳美恵子君） 本日の会議録署名員は、北島委員と崎山委員にお願いいたします。

\_\_\_\_\_ ◇ \_\_\_\_\_

○委員長（久芳美恵子君） 会期は本日1日といたします。

\_\_\_\_\_ ◇ \_\_\_\_\_

○委員長（久芳美恵子君） 本日、傍聴希望の方がいらっしゃいます。許可してよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

では、よろしくをお願いいたします。

\_\_\_\_\_ ◇ \_\_\_\_\_

◎第18号議案 平成25年度使用教科用図書採択要綱について

○委員長（久芳美恵子君） それでは議案の審議に入ります。第18号議案の朗読をお願いいたします。

（事務局朗読）

○委員長（久芳美恵子君） 説明をお願いいたします。

○指導室長補佐（桑田 浩君） それでは第18号議案、平成25年度使用教科用図書採択要綱について、お手元の資料に基づきご説明いたします。

まず、本要綱の目的ですが、教科書採択を公正かつ適正に行うために必要な事項を定めるものでございます。その内容は採択の権限、採択の基本方針、採択の方法、本年度採択をする教科書の一覧、採択の組織及び職務、評価基準及び教科書選定資料等について示しております。

次に、今回の教科書採択の要点でございますが、今年度は、小学校用・中学校用とも採択がえはございません。したがって、現在使用している教科書をそのまま採択することになります。

次に、特別支援学級用教科書でございますが、第4条第3号のイのとおり、学校教育法附則第9条による一般図書等については、適切な図書を採択できるとしております。したがって、今年度につきましては第7条のとおり、「特別支援学級教科用図書選定資料作成委員会」、「小学校特別支援学級教科用図書調査研究委員会」及び「中学校特別支援学級教科用図書調査研究委員会」を設置し、採択を進めるものでございます。

選定資料作成委員会の構成ですが、第7条第1号アのとおり、小学校特別支援学級調査研究委員会委員長、中学校特別支援学級調査研究委員会委員長、特別支援学級設置校の校長小学校2名、中学校1名、保護者等の代表2名の計7名でございます。

任務といたしましては、各調査研究委員会の調査報告書を検討、審議し、教育委員会へ報告することです。

次に、第7条第2号の小学校特別支援学級調査研究委員会及び第3号の中学校特別支援学級調査研究委員会ですが、特別支援学級設置校の代表校長、小学校、中学校各1名及び各設置校から1人ずつ選出された主幹教諭、主任教諭又は教諭をもって構成いたします。

次に、委員資格等及び採択の基準につきましては、第8条・第9条のとおりでございます。

最後に、今後の日程につきましては、第12条にお示したとおりでございますが、8月16日の定例教育委員会において、平成25年度使用教科書の採択をする予定でございます。

以上で説明を終わります。よろしくご審議をお願いいたします。

○委員長(久芳美恵子君) ありがとうございます。25年度教科用図書、来年度でございますが、使用いたします教科用図書の採択の要綱でございます。今、ご説明ありましたように、小学校、中学校に関しましては、現在使用しているものと同一の教科書が採択されることでございますが、特別支援学級用の教科書につきまして、それぞれに調査委員会が編成されて、8月16日の教育委員会で採択という予定でございます。

何かご質問、またご意見等ございますでしょうか。

○委員(崎山 弘君) 例年どおり小学校、中学校は前年度のものをそのまま使用することとなるわけですが、むしろ我々、採択する権限があつて採択したわけですが、使ってみて、先生方がどうだったかと、前からちょっと聞いてみたいと思つているのです。これは採択替えの年になると、なかなかそれを聞くことがはばかれるというのが出てくるので、むしろ変えないとしたら、今年度あたり、実際にこれ使ってみて、今回から変わった会社のものもあつたりするわけですから、どんなものだったかというのを、今年だったら気軽にもし出せるのであれば、一度意見を聞いてみたいと思つているのですが、そういうことは可能なのでしょうか。

○委員長(久芳美恵子君) いかがでしょうか。

○教育部副参事兼指導室長(小椋 孝君) いろいろ方法は考えられると思います。調査研究をした委員長の先生とか委員の方にお聞きして、専門的なところがあれば、各学校にどうかと聞く方法もありますので、ちょっと持ち帰らせていただいて、聞き取りなりアンケート、もしくは指導主事が学校訪問した際に聞くなど、何らかの方法で採択していただいた側に、先生方の意見が伝わるような方策を考えたいと思います。

○委員長(久芳美恵子君) よろしくお願ひいたします。ほかにいかがでございましょうか。

ご質問だけでなく、ご意見でも結構ですが。

それでは、反対意見はございますでしょうか。よろしゅうございましょうか。

それではお諮りいたします。第18号議案「平成25年度使用教科用図書採択要綱について」、決定することにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(久芳美恵子君) 異議なしということでございます。原案どおり決定いたします。よろしくお願ひいたします。

本日の議案は本件1件でございますので、報告・連絡に移ります。



◎郷土の森博物館「あじさいまつり」について

○委員長(久芳美恵子君) 報告・連絡(1)につきまして、ふるさと文化財課、お願ひいたします。

○ふるさと文化財課長補佐(谷本耕一君) それではふるさと文化財課から、(1)郷土の森博物館「あじさいまつり」につきまして、お手元の資料1のチラシに基づきご報告いたします。

郷土の森博物館の園内約13.7ヘクタールでは四季折々の花が楽しめ、6月初めには西洋

アジサイ、ガクアジサイなどの約30種、1万株のアジサイが咲き出し、6月中旬には見ごろを迎えます。博物館には市内から移築復元された古い建物が8棟あり、アジサイの花越しに見る大正時代の町役場や、江戸時代のかやぶき屋根の農家などが独特の風情を演出いたします。今年は一昨年までの郷土の森「あじさいまつり」に事業名を戻し、6月9日から開催いたします。ぜひほかでは味わうことができない博物館ならではの風情あるアジサイをごらんください。

会期は平成24年6月9日（土）から7月8日（日）まで。会場は郷土の森博物館、園内全体です。期間中、6月17日、7月1日の2回、あじさい工房「あじさいのかざりを作ろう」で、アジサイのステンシル、フェルト細工などでアジサイにちなんだオリジナルの飾りをつくるイベントや、あじさいまつり期間限定のあじさい餅と、抹茶が楽しめるお茶室を利用した呈茶も開催されます。

以上でございます。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。恒例のあじさいまつりでございます。

今、ご説明ございました。何かご質問、ご意見ございますでしょうか。

○委員（崎山 弘君） 2年前も指摘したところではあるのですが、このあじさい餅の葉っぱは本物ではないですよ。

○ふるさと文化財課長（江口 桂君） 本物ではなくて、疑似葉っぱみたいなものでございます。食べられない葉っぱでございます。

○委員長（久芳美恵子君） やはり本物の葉っぱのほうがいいなという思いはありますが、毒があるということも聞きまして、これはいたし方ないと了解したものでございます。

あじさい餅は各その日で先着20名様だそうですので、もしお出かけの節は、早目にお出でください。

ほかにかがででしょうか。この「あじさいのかざりを作ろう」、あじさい工房というのは例年おやりになっていらっしゃるのでしょうか。

○ふるさと文化財課長（江口 桂君） こちらは一昨年にもとに戻しまして、例年やっております。

○委員長（久芳美恵子君） 梅に続きましてアジサイということで、おそらく楽しみにしていらっしゃる市民の方も多くあると思います。

ほかにご質問、ご意見、よろしゅうございましょうか。

それでは報告・連絡（1）、郷土の森「あじさいまつり」について了承いたします。どうぞよろしく願いいたします。

————— ◇ —————

◎2012ボールふれあいフェスタの開催について

◎第23回市民スポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催について

◎こども体力チャレンジ事業の実施について

○委員長（久芳美恵子君） 次に報告・連絡（2）（3）（4）でございます。生涯学習スポーツ課、お願いいたします。

○生涯学習スポーツ課長補佐（古田 実君） それでは、お手元の資料に基づきまして、まず、（2）の2012ボールふれあいフェスタの開催につきまして、お手元の資料2によりご報告いたします。

毎年2,000人近くご参加をいただき、大好評を得ているボールふれあいフェスタを、6月17日(日)に、郷土の森総合体育館及び郷土の森サッカー場で行います。この事業は、府中市を活動の拠点としているラグビーの東芝ブレイブルーパス、サントリーサンゴリアス、男子バスケットボールのトヨタ自動車アルバルク、サッカー及びバレーボールのFC東京、フットサルの府中アスレティックFCの6つのトップチームと、市内の関係団体のご協力のもと、子どもたちに日本のトップレベルのスポーツ選手と触れ合うことで、スポーツが本来持つ楽しさを体験してもらうことを目的として実施いたします。

特に昨年は6つのトップチームのうち3チーム、サントリーサンゴリアス、トヨタアルバルク、サッカーのFC東京が天皇杯優勝、サントリーとトヨタにつきましては、リーグ戦とあわせて2冠を達成、FC東京はJ2優勝、J1昇格と、まさに今年は日本のトップチームが集うボールふれあいフェスタ、「スポーツタウン府中」の名にふさわしい事業でございます。

今年で9回目を迎えるこの事業は、各競技のミニゲームや体験コーナーなどの催し物、来年開催されるスポーツ祭東京2013の啓発イベントのほか、エキシビジョンとしてスポーツ祭東京2013において、府中市で実施されるデモンストレーション競技「ダブルダッチ」の演技披露及び体験会を行う予定でございます。

続きまして、第23回府中市民スポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催につきまして、お手元の資料(3)によりご報告いたします。

この事業は、広く市民の間にスポーツ・レクリエーション活動を実践する場を提供し、市民一人ひとりがその場の活動の振興に貢献することを目的とし、6月24日(日)に、郷土の森総合体育館で総合開会式を行います。終了後に市民団体による新体操や太極拳等の演技種目の発表が行われます。さらに13の競技種目を1カ月余りにわたって実施し、その多くが小・中学生も参加できるものとなっております。また、スポーツ祭東京2013の開催に向け、東京都で制作されたゆりーとダンスを総合開会式の場において披露する予定でございます。

最後に、こども体力チャレンジ事業の実施について、お手元の資料(4)によりご説明申し上げます。

本事業は、多摩・島しょスポーツ振興事業助成金を活用して、平成24年度を初年度とし、平成26年度までの3年間実施する事業でございます。子どもたちを取り巻く社会環境の著しい変化により、子どもたちの体力低下傾向が続いている状況を踏まえ、スポーツ推進委員が中心となり、主に夏休み期間を利用して、子どもたちに運動する習慣を意識づけることを目的に、早稲田大学さんの協力のもと実施するものでございます。

今年度が初年度のため、モデル校方式で府中第六小、府中第十小、若松小の3校で実施をさせていただきます。対象者は1年生から3年生を対象として実施いたします。

実施時期と内容でございますが、6月に可能な限り保護者も同席いただきながら、体力測定5種目、握力、上体起こし、反復横跳び、体前屈、30秒縄跳びを、学校の体育館において、PTAの方々にもご協力を得て行います。その結果、どの項目がすぐれているか、努力が必要なのかを保護者と一緒に考え、今後の取り組みの目標を立てていただき、その目標ごとにそれぞれの子どもたちが自主的に夏休みを中心に、スポーツや家族・友達との活動や、地域イベント等へみずから参加したり、スポーツ活動ばかりでなく、家事手伝いなど1日当たり行った時間を記録していただき、家庭で親が子どもと話し合い、1日を振り返りながら大体どれくら

い運動したかどうかというものを事前に配付するシートに記入していただき、夏休み期間中の運動習慣を意識づける目的で事業を進めていきたいと思っております。

さらに9月に、6月に実施する同様の内容の体力測定を実施し、夏休み中に行った取り組み等の努力の成果を数値で可視化することで、子どもたちが自信または励みにつなげ、外で元気よく遊ぶ子どもたちが増えることを期待したいと考えております。今後、子どもたちの取り組みのデータを早稲田大学さんに分析していただき、子どもたちの体力の向上のため、この事業に生かしていきたいと考えております。

なお、お手元の資料の内容につきましては、最終調整をしている段階のものでございますので、表紙に(案)と表記させていただいておりますが、ご承知おきいただきたいと思います。

以上で説明を終わらせていただきます。

○委員長(久芳美恵子君) 報告・連絡の(2)(3)(4)、生涯学習スポーツ課が管轄するものについてご説明いただきましたが、一つずつ皆さんのご意見等を伺っていききたいと思います。まず、(2) ボールふれあいフェスタについてはいかがでございましょうか。何かご質問ございますでしょうか。

○委員(齋藤裕吉君) このチラシの雰囲気などは去年と同じ感じがするのですけれども、今年と昨年度と違う部分というのはあるのかなと、ちょっとお聞きしたのですけれども。

○生涯学習スポーツ課長補佐(古田 実君) 基本的には、大きなものは一緒でございますが、今年は来年度スポーツ祭東京2013の開催がございますので、その機運を高める目的で、この右下のほうにありますスポーツ祭東京2013、ゆりーとが入っている絵とか、いろいろその関係で行うイベント関係等々を載せているところが、主に昨年と違うところでございます。

以上でございます。

○委員長(久芳美恵子君) ということでございますが、いかがでございましょうか。

○委員(齋藤裕吉君) わかりました。

○委員長(久芳美恵子君) ほかにいかがでございましょうか。トップチームがこのような形で子どもたちとかかわっていただけというのは本当に府中の子どもたちは幸せだなと思えます。例年2,000人以上参加があるようですけれども。今まで雨天というのは、どのくらいありましたでしょうか。また、その場合の代替というのはスムーズに行われたかどうか、その辺はいかがでございましょうか。

○生涯学習スポーツ課長補佐(古田 実君) 昨年から会場を増やしました。それは屋外、人工芝のグラウンドを使ってということでございます。もちろん、この時期でございますので、雨天の心配等もございます。よっぽどの雨が強くない限りは、基本的には外でやりたいということの申し出が団体等からいただいております。ただ、子どもの健康面等も配慮しながら、状況によっては第二体育室でサッカーさんのエリアを若干狭めて、ラグビーのエリアという形でエリアを設置したりと考えております。

以上です。

○委員長(久芳美恵子君) ぜひお願いいたします。最近はずごく気象状況がおかしくて、落雷やひょうが降ったりとか、また竜巻とか、そんなこともありますので、状況を見ながら、万が一のときにはどこかに避難するというようなことも考慮に入れていただいて、計画を進めていただければと思っております。



ほかにかがでございましょうか。よろしゅうございましょうか。

それでは、報告・連絡（２）ボールふれあいフェスタについては了承いたします。

次に（３）でございます。第２３回市民スポーツ・レクリエーションフェスティバル実施の要項でございます。６月２４日（日）に総合開会式が郷土の森の総合体育館で行われます。

この件につきましては、いかがでございましょうか。

一番遅くに開催されるのがファミリーゲートボール、７月２５日というのが最終でございますね。あとは６月から７月の初めにかけて実施されるということですね。ラージボールの卓球が７月２２日ということでございますが、いかがでございましょうか。

よろしゅうございましょうか。さまざま１３の競技種目がございますが、それぞれのところに個人で申し込むという形になると思います。

それでは、報告・連絡の３番、第２３回市民スポーツ・レクリエーションフェスティバル実施要項につきまして、了承いたします。

次に（４）でございます。府中市こども体力チャレンジの実施要項（案）でございますが、これにつきましては、いかがでございましょうか。

○委員（崎山 弘君） これは３年間の事業ということですが、今年度はモデル校設置で３校ということですが、その結果を見て、来年度以降はそれが増える、あるいは全校実施とか、そういう計画になっているのでしょうか。

○委員長（久芳美恵子君） いかがでしょう。

○生涯学習スポーツ課長補佐（古田 実君） 今、委員さんからもお話がありましたとおり、まずは初年度ですし、また初めてというところで、いろいろなノウハウ的なものも正直まだないということでございますので、今年の実施状況等も踏まえ、反省点も踏まえて、次年度以降は拡大していく方向性の中で考えていきたいと考えてございます。

以上でございます。

○委員長（久芳美恵子君） よろしいですか。

○委員（崎山 弘君） 今も言われましたけれども、こういう事業、今までスポーツを評価して、プログラムをやって、それでどれくらい上達したかを確認するみたいなことは、今までこういう事業は全く府中市としてはやったことがなかったということでよろしいですか。

○生涯学習スポーツ課長補佐（古田 実君） 実際に子どもたち等を対象にした、いわゆる交流的なものの事業がほぼ多いところだったのかなと思います。このたび多摩・島しょ振興事業助成金というアナウンスがあったものですから、ぜひ飛びついてみたいなど。この子どもたちを取り巻く社会環境等を踏まえてぜひやってみたいということで、新たな取り組みということでございます。

あと、来週にＰ連の全体会がございます。そこで私どものスポーツ推進委員の会長島中さんが、この事業について前段で１時間程度時間をとってお話をさせていただくというところがございます。

以上です。

○委員（崎山 弘君） 今回、対象学年を１～３年としたことの原因について、何かありますでしょうか。

○生涯学習スポーツ課長補佐（古田 実君） 対象学年を１年生から３年生にした理由でござ

いますが、この小学校低学年1年生から3年生は神経系がとても発達する年齢だと伺っております。したがって、今後の子どもたちの運動能力を向上させるためには、ここが一つのポイントなのかなということをとらえて、今回対象者をこの学年に絞らせていただきました。

以上です。

○委員(崎山 弘君) 毎年、体力テスト、あれは5年生にやっていたか、調査は。東京都全部というのは、何年生でしたか。

○教育部副参事兼指導室長(小椋 孝君) 23年度から、うちでは全学年でやっています。

○委員(崎山 弘君) そういう評価が別立てであるので、これをやることによってそれがどう変わるかというのも一つ、私は興味のあるところだなと思っていますが、その評価する学年にあわせてやったほうがいいかなと思ったので、ちょっとお伺いしました。わかりました。

○委員長(久芳美恵子君) ちょっと絡んでなのですけども、この低学年、3つの小学校で1年生から3年生までということで、これは全員ということなのか、それとも希望者ということなのか。結構夏休みで保護者の方がかかわる部分が多いような気がするので、その辺はどのようにお考えでしょうか。

○生涯学習スポーツ課長補佐(古田 実君) まず、参加者の関係でございしますが、希望としてはやはり全員、皆さんに来ていただきたいのですが、ただ、先ほどのお話と重複いたしますが、初年度ですし、この進め方のノウハウについてはまだまだございませんので、6月の初旬に対象校に、該当学年にチラシ等を配付させていただいて、参加型、希望型という形をとらせていただきます。そして、6月の下旬におおの学校さんの体育館を借りて、希望した子どもたちがこちらへ参加していただく。その際に、測定の関係はPTAさんともご協力をいただいで行うという形でございます。

以上です。

○委員長(久芳美恵子君) わかりました。多くの子どもたち、保護者が参加していただけるといいと思います。本当に体力低下というのは大変な問題だと思いますので。

○委員(齋藤裕吉君) 1年から3年、能力の伸長する時期ということなのですけども、実施種目を見ると、握力とかちょっといろいろ工夫しないと、測定はなかなか難しそうかなと思うものも結構含まれている感じがします。握力計を1年生が握れるかどうか、自分のイメージだとちょっと厳しいかなという感じがするのですけれども、握れるものもあるのかな。実施に当たっては工夫してやるべきものもあるのではないかなということを思います。上体起こしもそうです。結構筋力を要するようなものもありますので、子どもが無理をしてけがなどないようぜひお願いをしたいなと思います。

あともう一つ質問、私自身わからないのでお聞きしたいことなのですけども、この多摩・島しょ事業というのは前々から、割と前からありますよね。この振興事業を受けて、多摩・島しょと2つくっついていること自体も、私、どう理解するのかとわからなかったのですけれども、随分状況的には違うのですけれども。これは都の事業でしょうから、ここでどうこう言っても仕方がないのでけれども。多摩地区の場合は、市ごとにこれを受けて事業を組んでいるという、そういう内容なのでしょうか。そこのところを教えてください。

○文化スポーツ部次長兼生涯学習スポーツ課長(町田昌敬君) 多摩・島しょスポーツ振興事業でございますけれども、これは東京都の市長会の事業ということで、多摩・島しょと言ってお

りますけれども、多摩の26市と島しょ部の町村が集まって、その中で今回この事業につきまして、やはり国体ということがありまして、国体については東京都がいろいろと次世代のアスリートの育成というようなことで予算をつけてやっているのですけれども、それ以後、国体以降東京都の市町村としてどういうふうに取り組んでいくかということが、市長会の中で話がありまして、検討してスポーツ関係の予算化をしていったというような内容の事業でございます。

それと、各市町村がそれぞれ事業を、趣旨に合うような事業を考えて、それを申請しまして、認められたものに予算がつくというような事業でございます。

○委員長（久芳美恵子君） 各市町村が独自にということですね。

○文化スポーツ部次長兼生涯学習スポーツ課長（町田昌敬君） そうです。

○委員（齋藤裕吉君） わかりました。

○委員長（久芳美恵子君） ほかにいかがでございましょうか。

○委員（崎山 弘君） 具体的に参加希望者を集めてという事業をやるのは、曜日的には日曜日を想定されているのでしょうか。

○生涯学習スポーツ課長補佐（古田 実君） 先ほど申しあげました時期の土曜日または日曜日、どちらか。そして、その半日の時間帯を開きながら、その時間帯に来られる子どもに参加していただくという形でございます。

以上です。

○委員（崎山 弘君） なぜこれを伺ったかという、新規事業を新しく曜日を設定すると、例えば先ほどのスポーツ・レクリエーションフェスティバルが6月24日に設定されていて、そこに親が出てくるとやはりもう出れないだろうと思うし、かなり日程というのはいろいろ詰まっているものが先にあるわけですから、それを想定してちゃんと日程を組まないと、希望者といっても、実際スポーツをやる人はあっちにもこっちにも顔を出せるはずがないので、何か重複してしまいそうな気がする、こういう日程もちゃんと考慮の上で決めないとまずいのではないかなと思うのですが、その辺に関していかがでしょうか。

○生涯学習スポーツ課長補佐（古田 実君） 今、委員さんからお話がありました。もちろん私どもの事業でございますから、例えばスポレクとか、そのほかの事業、また学校で行われる学校公開とか、そういった事業等も日程等を調査した上で、バッティングしないようにという形で、今回調整等を行っております。

以上でございます。

○委員長（久芳美恵子君） どうぞよろしく願いいたします。

ほかに何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。

特にないようでございますので、報告・連絡（4）府中市こども体力チャレンジ実施要項（案）につきまして了承いたします。できるだけ多くの子どもたちが参加することを望みます。

————— ◇ —————

◎企画展「イメージの叫びーパワー・オブ・創作木版画」の開催について

○委員長（久芳美恵子君） それでは報告・連絡（5）でございます。美術館、お願いいたします。

○美術館副館長（山村仁志君） それでは、美術館である次回の企画展について、お手元のチラシ、資料5に基づきまして報告いたします。

5月19日（土）から7月1日（日）まで、「イメージの叫びーパワー・オブ・創作木版画」を開催いたします。58作家、約160点の展示品でご紹介いたします。チラシの裏面をごらんください。自分で原画を描き、自分で板に彫り、自分で紙に刷る版画は明治末に始まり、大正時代から昭和にかけて、庶民、民衆の間で大変に流行いたしました。分業が当たり前だった浮世絵に対して、こうした木版画のことを創作木版画といいます。本展はこの創作木版画の魅力、すなわちパワーを五つの章に分けて展示いたします。

各章の内容でございますが、第1章木版画表現の「強さ、深さ、豊かさ」では、山口進や前田政雄などの版画で、大胆で単純な色と暮らしの魅力を紹介いたします。第2章、版画の中の静けさでは、平塚運一や笹島喜平の版画で、永遠をその情景に閉じ込めたような独特の世界を紹介いたします。第3章、ゆかいな「版」の世界では、前川千帆や浅野竹二の版画で、ユーモアにあふれた木版画の独特の表現を見ていただきます。第4章、「木」のぬくもりとやさしさでは、稲垣知雄の猫の版画を通して、木版特有の木彫りの質感と肌触りを体感していただきます。第5章、繊細な感覚と幻想では、関野準一郎等の版画を取り上げまして、想像力にあふれる幻想世界を紹介いたします。また、今回作品の一部では、版画をガラスの額に入れませんで、生のままで展示いたします。人のくしゃみなどで作品を傷つけるおそれがあるので、ふだんは通常の美術館の展示ではしない方法ですが、マスクなどをご着用、あるいはハンカチなどをご用意いただき、紙の凹凸、色彩、肌触りなど木版画の繊細な魅力が一層味わえる、そういうコーナーにいたします。

また、期間中、版画愛好家の懇話会、学芸員による講座、それから北欧音楽のミュージアムコンサートを開催いたします。また、「彫る」をテーマにした落語会など、さまざまなイベントを開催いたします。各小・中学校には今週中にチラシ、ポスターを配付しまして、ぜひ親しみやすい木版画の世界に多くの生徒・児童に触れてもらえますよう広報してまいります。

なお、4月の委員会で報告すべきところ、チラシの中身が固まらず遅れてしまいましたことをおわび申し上げます。

以上で美術館の報告を終わります。

**○委員長（久芳美恵子君）** 開会間もない美術館の企画展でございます。木版画の世界ということでございますが、いかがでございましょうか。

開催中に各種イベントも行われるようでございます。展覧会にあわせて落語とコラボというのはおもしろいですね、こういうのは、いかがでございましょうか。

**○委員（齋藤裕吉君）** ガラス越しではなくて、直接作品の風合いというのでしょうか、これを参観者に味わってもらおうという趣旨、非常にすばらしいなと思いました。マスクとか、例えば受付か何かで配られるとか、そういうところまで計画をしているのですかね。

**○美術館副館長（山村仁志君）** チラシのほうで、マスク、ハンカチをご用意していただけるようにと書いてあるのですが、実際に大量に安いものなので買っておきまして、持ってきていない方にはお願いしますというふうに、差し上げるということで用意しております。

**○委員長（久芳美恵子君）** いかがですか。

**○委員（崎山 弘君）** たしか前もチラシのときのマップ、西国分寺駅が書いていなかったマップを前1回見たことがあるのですけれども、今回も出ていないですね。これ何でないのですか。中央線と武蔵野線が交差するところに駅がないのは不思議ではないかな。

○美術館副館長（山村仁志君） 今、言われて初めて気がつきました。以後、訂正するようにいたします。

○委員（崎山 弘君） 前も1回あったような気がするのですが。

○美術館副館長（山村仁志君） 西国分寺から直接いらっしゃる方法がないものですから、そのマップには書いていないのですが、確かに交差していますので、訂正します。

○委員長（久芳美恵子君） 西国分寺駅というのが入るとまた来やすい方もいらっしゃるかもしれません。よろしくお願いいたします。

よろしゅうございましょうか。大変楽しみな展覧会でございますが。

それでは、報告・連絡（5）美術館の企画展「イメージの叫びーパワー・オブ・創作木版画」の展覧会につきまして了承いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

その他でございますが、何かございますでしょうか。

ございませんようですので、教育委員の報告に移ります。



#### ◎教育委員報告

○委員長（久芳美恵子君） 教育委員報告をお願いいたします。

○委員（北島章雄君） 北島より報告させていただきます。

4月27日、東京都市町村教育委員会連合会第1回理事会に出席いたしました。

4月27日（金）、同じですね。校長の歓送迎会に出席いたしました。場所はルミエールで行われました。退職校長のユーモアを交えたスピーチ、新任校長の少し緊張されている感じでお話された、また穏やかな雰囲気の中で行われた歓送迎会でした。

5月4日（金）なのですけれども、5月の例大祭の中で行われた山車行列に参加いたしました。市内の山車が全部集まり、その中に校長先生をはじめ、多くの先生方が参加されておりました。府中市の無形文化財の府中囃子の発展のために、多くの児童・生徒が参加されていて、山車の上で踊りを披露しておりました。

5月9日、第51回府中市小中学校教育研究会に出席いたしました。51回目を迎えた歴史のある府教研に、市内の学校長を初め、たくさんの先生方の出席のもとに議事進行もスムーズに行われておりました。小椋指導室長が講演なさったのですが、講演の前に災害派遣として宮城県の小学校に派遣された四小の木村先生と、もと六小で、現九小の平田先生のお話をお聞きしました。災害派遣されて行った学校の、木村先生は横山小学校だったかな。避難されていた児童が、横山小学校で作文を書かれて、その作文を木村先生がお読みになった。とても印象的でした。避難するに当たっての、本来だったら学校の屋上に避難すべきところを、地元地域の方々のご意見で高台に避難したということ。その児童たちは全部そこで全員助かったということをお聞きしました。助かった中に、神社で夜を過ごすわけですがすけれども、その様子も、低学年、4年生ぐらいまでは神社の中に入られて、中に全部入れないので、外でその教職員の方と高学年の方が過ごしたということをお話しておられました。本当にそういう体験をしたのだなということを目の当たりにお聞きし、とても感激したというのかな、すごく思いました。

やはり安全・安心な学校にするためには、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合って、一緒に協同しながら子どもたちの豊かな成長を支えていくことだなということを思いました。また、防災教育の面からも小・中一貫教育の推進の必要性を感じました。

以上です。

○委員(崎山 弘君) では、崎山より、前回4月19日の教育委員会定例会以降の活動について報告いたします。

4月27日、東京自治会館で行われた東京都市町村教育委員会連合会第1回理事会に北島委員とともに出席してまいりました。5月24日に開催される総会に向けて議案を審議いたしました。今年度、私は研修推進委員になっていますので、今年の秋に実施される第二ブロック研修会の実施に関わることになりました。

5月4日にくらやみ祭の山車の行列に参加しました。私の地域は武蔵台ですが、武蔵台、北山町、西原町には神社がないので、古くからの地域のお祭りはありません。11年前にこの地域で山車行列に参加するようになったときに、当時の武蔵台小、府中第七小、府中第七中のPTA会長を中心として、「くらやみ祭を子どもたちと楽しむ会」を結成して以来、今年で10回目となります。武蔵台小、府中第七小、府中第七中の校長先生、副校長先生をはじめ、多くの先生方に参加していただきました。また、先ほど北島委員もおっしゃっておられましたが、市内を練り歩いているときも、多くの校長先生等にお会いいたしました。連休の最中に、地域と子どもたちのために時間を割いていただいた学校の先生たちに感謝したいと思います。ありがとうございました。

5月9日に、渋谷区立中幡小学校の学校保健委員会で、放射能の話について講演してまいりました。放射能のベクレルとシーベルトの違いなど基本的なことから説明して、渋谷区での現状をどのようにとらえるべきか、結論から言えば、不安になることはない、安心してよいという話をしてまいりました。後日に参加者の感想をいただきましたが、皆さんよく理解していただいたようで、また安心できたという言葉にこちらも安堵いたしました。

5月14日月曜日から府中第八小がセカンドスクールに出発し、昨年同様、さくらんぼクリニックの三日市先生、平林医院の平林先生とともに医療相談のホットラインも開始いたしました。今もここに府中市の携帯電話があります。昨年は緊張の中で実施されたセカンドスクールも2年目になりました。気の緩みのないように、私もセカンドスクール期間中は、携帯電話を常に持ち歩くようにいたします。

以上です。

○委員(糸満純一郎君) それでは糸満から報告をさせていただきます。

4月21日に、退職校長会の府中支部の総会に出席いたしまして、日頃お世話になっている御礼を申し上げます。

4月22日に、初めて参加したのですが、消防少年団の卒入団式というのが消防署で行われてまして、内容的には府中の小学生、中学生、そして高校生もお世話役でやっているという縦の組織になっておりまして、どちらかというとボーイスカウトなんかと近い組織かなと感じましたけれども、そういった異年齢が一緒に協力しながら、消防活動しているということで、いい風景だなと感じた次第でございます。

4月26日に、偶然なのですが、府中西高校の正副校長先生、それから時間をたがえて府中高校の正副校長先生、またそれに先立ちます4月13日には府中東高校の校長先生がごあいさつに見えまして、考えてみれば府中にはそのほかに工業高校、農業高校もあわせると、都立の高校が5校もあるということで、府中の中学校を中心に、あるいは小学校とも連携、何か考え

ていきたいねという話をさせていただきました。

4月28日に、ターゲットバードゴルフ協会の10周年ということで、これはニューススポーツなのですが、そこが市民スポーツとなってから10周年だったということで、お祝いの会に参加をさせていただきました。

5月9日に府教研の総会がございまして、今年から内容的にはセレモニー的な要素を少し簡素化して、実質的なものに取り組むのだということで、新しく、新生府教研といいますか、そういった総会に行っていました。先ほど北島委員さんのご報告のとおり、被災地派遣の先生方の話も、本当にリアルな感じで聞かせていただいて、大変よかったかと思えます。

5月10日、11日に関東地区都市教育長協議会に私も参加させていただきました。1日目が総会で、2日目は分科会ということで、私は生涯学習の取り組みの第3分科会というのに参加いたしましたが、そこで杉並区のほうから事例の報告がございました。杉並区はやっぱり都内ですし、人口も多いですし、府中がそのまま真似をして受け入れられる部分も、全部を受け入れるのはなかなか難しいかなというような印象を受けました。

一番驚いたのは、小学校の英語活動のボランティアを30名ぐらい募集したところ、250名の応募があったそうです。大体海外に赴任していた商社の方だとか、外交官の方だとか、そういうご家族が大勢いらっしゃるようで、250名も集まってきたということで、私もそこで府中では参考にならないかと先ほど冒頭申し上げましたけれども、逆に府中も広報だけではなくて、一般紙の地方版でボランティア募集をやれば、こういう人の漏れた230名の方はこっちに来てくれるのではないかなというようなこともちょっと考えたりいたしました。

5月13日に、合同水防訓練が多摩川護岸でございまして、私も参加をさせていただきました。

5月14日、市議会の臨時会がございまして、議会人事の臨時会なのですが、文教委員会に吉村委員長、須山副委員長がそれぞれ選出をされております。

5月15日から、府中市役所のほうで10月15日までの間、クールビズということで、ノーネクタイ、ノー上着ということで、省エネルギーに取り組むということで実施をいたしております。

同じく5月15日の夕刻ですが、校長会を中心として、これから教育管理職を目指す先生方を集めて、自主研究会というのをやっているのです。その点、こういう時期、なかなかそういった人材がない、あるいはいっても受験しないという時代に、こうして校長会が中心となって、仕事を終えてから勉強に取り組むということで、大変感激いたしまして、開校式では大変心強く思います、頑張ってくださいというごあいさつをさせていただきました。

5月16日に、学校評価委員会、今年度第1回ということで開催されまして、日ごろのご協力に感謝のごあいさつを申し上げてまいりました。

以上でございます。

○委員(齋藤裕吉君) それでは齋藤からご報告申し上げます。

4月28日(金)ですが、ほかの委員さん方と同じように、府中市立小・中学校長歓送迎会に出席をさせていただきました。お疲れさまとようこそという会だったわけですが、退職された先生方、特に再任用のない校長先生方、本当にすがすがしい表情で、これは毎年そうなのですね。やっぱり校長職というのは大変な仕事なのだということを思いまして、

お疲れさまという気持ちで参加をしてみました。

それと5月4日（金）ですけれども、府中の郷土の森博物館の見学を1人でしてみました。先にこの委員会で報告いただいた特別展示の武蔵府中の板碑というやつです。このコーナーを見学させていただきました。梵字の意味、またそれについての解説を読んでよくわかりました。板碑というものの意味も大体わかったような気がいたします。つまり、今、卒塔婆といって、板に書いて。法要の記録という意味なのでしょう。あれと同じ意味ということなのだということを自分としてはわかったような気がしています。比較的身近なものから歴史を感じさせるという、興味深い展示だったと思います。

私、いつも小・中学生にもよくわかるようにしてほしいなんて言うのですけれども、ちょっとこの展示は小・中学生には無理ですね。意味を読み取る、説明を読み取るということについて。でも、そういう展示も必要だと参観しながら思いました。生涯学習機関としての博物館の展示ということで考えれば、いろいろな形の展示の仕方があっていいし、現に、私と一緒にどうか、すぐ近くでじっとこの説明を読みながら、展示物を見ていらっしやっただ方も、大人の方ですけれども、本当によく考えながら見ていらっしやいましたし、このような展示があつていいなと、硬めの展示も大事というようなことを思いながら参観してみました。

5月9日の水曜日ですけれども、私も府中市立小・中学校の教育研究会総会に出席をさせていただきました。校長会で検討委員会を設けて、府教研のあり方を考えながら改革を進めているということで、今はその小・中学校の連携というところに焦点を当てて研究を進めているということでした。私もかつてこの会の会長を務めたことがありますけれども、比較してみますと、いろいろな面で着実に前進をしているなということを感じました。集合の仕方一つとっても、きちんとこの時刻にはスタートという、時刻に合わせた集合を先生方に徹底するとか、小・中の打ち合わせも前よりは随分緻密になっているなということを感じました。

それから、こういう場で有名人等をお呼びして講演をいただくというパターンも多かったのですけれども、今回も小椋室長からプラン21の進捗状況、また今後の目指すべき方向についてということで、学力、こころ、からだについての具体的な数字を上げながらの説明をいただいたり、それから今、盛んに取り組みつつあるコミュニティスクール事業のことなどについて、小・中学校の先生方に直接語りかけるというお話をいただいて、とてもよい形で、よい機会になったのではないかなと思いました。

ありがとうございました。以上です。

**○委員長（久芳美恵子君）** それでは久芳からご報告いたします。今回は2件でございます。

4月27日のルミエールでの校長先生方の歓送迎会、これは先ほど来ご感想が出ておりますが、私も同じような感想をもちました。

そして5月5日、子どもの日で休日でございますが、府中市の美術館、「三都画家くらべ京、大坂をみて江戸を知る」に行ってみました。休日でございますけれども、非常に多くの方々がお出でになって、一つひとつの絵のところに1人ないし2人いらっしやるという、随分興味がある方がいらっしやるのだなと私は思いました。音声ガイドを借りまして、一つひとつ鑑賞させていただきましたが、絵は本当に一つひとつが厳選されたものだったわけなのですが、美術館側で非常に工夫していらっしやる所を今回ご紹介したいと思いました。

まず画家が大分人数おりました、今回私が行ったときには後期だったわけなのですが、後期



に作品が出ている画家の経歴等々が1人10行前後にまとめられた、こういうパンフレットをいただきましたし、また、子どもたちがたぶん喜ぶだろうなと思ったのが、「三都探検隊」という小さな冊子です。クイズ形式なのです。それで作品をきちんと見ないとそのクイズに答えられないということで、例えば5問あるのですが、1問は作品番号の2番で、「広々とした気持ちのよい景色だね。描かれているのは京の宇治、季節はいつかな」というものです。答えが1、春、2、夏、3、秋、4、冬ということで、絵をきちんと見ていれば、これは春だということがわかるような、こういったようなものが一つありました。そしてもう一つは、展覧会場を出たところに、「さんとくんのハンコたび」というのがございまして、昔の五十三次の各宿場を描いた版画、それがこういうふう一枚の紙に印刷されていて、あと、江戸と京都と大阪、これを自分で印刷するのです。ちょうど私がそこにいましたときに、結構高齢のご夫妻の方が、これはどこに入れるのかなんて言いながら、お2人ですごく仲よくやっていたら、この辺のところは、作品は深くは楽しめなくても印象などはわかると思ったのですけれども、探検隊のクイズなど小学校の低学年でも楽しめるような工夫がしてあったなと思いました。

それと、もう一つ。1階にあるギフトショップです。これが毎回そうだったのかもしれませんが、今回特に気になったのは、展示にあわせたギフトが置いてあったことです。私が買い占めてしまったのが、歌川国芳の猫のカード入れ。非常にコンパクトで、今度友人に会ったら全部配ろうと思っていますが、すごくかわいいのです。そういうものとか、それから大阪の栗おこしがあったのはびっくりいたしました。あまり食べ物というのは売っていないので、感激しまして、30年ぶりぐらいで栗おこしを家で賞味いたしました。

これだけではないのですが、中の販売品がいわゆるニューヨークだとか、ロンドンだとかの美術館や博物館と似た雰囲気は私は感じたのです。そうでないと、単なる土産物屋みたいになってしまうおそれがあるのです。美術館だとか博物館で売らんかなという思いが先立ちますと、展覧会に来た方の感覚とはちょっと違ったようなものがお土産としておもちゃなどがあつたりするのですが、そのおもちゃが展覧会の趣旨に合ったものであればいいのですが、そうでないことも往々にしてあるのです。小さな場所ですけれども、パッと見た中で非常に上質の雰囲気を感じて、美術館の皆さんが本当に努力していらっしゃることを感じさせていただきました。

以上でございます。

それでは、これにて平成24年第5回府中市教育委員会定例会を閉会といたします。どうもありがとうございました。

---

◇

---

午後4時03分閉会